

## 音読教材 新美南吉「あし」

二ひきの馬が、まどのとこでぐうるぐうるとひるねをしていました。

すると、すずしい風がでてきたので、「ひきがくしやめをしてめをさましました。」

ところが、あとあしがいっぽんしびれていたので、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」

そのあしに力をいれようとしても、さっぱりはいりません。

そこでともだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいっぽん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんといっているじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちょっとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをほおんとけとばしました。

「やっぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたはずだ。よし、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やア、椅子がある。椅子がぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、け

とぼしてやろう、ぼくのあしならいたいはずだ。」

馬はかたあしで、椅子のあしをけとぼしました。

椅子は、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぼんぼんけってまわりました。

けれど、どれもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひよっとしたら、あいつがとったのかもしれない。」

と馬は思いました。

そこで、馬はともだちの馬のところへかえってきました。そして、すきをみて、ともだちのあとあしをぼオんとけとぼしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

とさけんでとびあがりました。

「そオらみる、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「このとんまめが。」

ともだちの馬は力いっばいけかえました。

しびれがもうなおっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。

そして、やっこのことで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。